



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 ダイソー株式会社

コード番号 4046 URL <http://www.daiso.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 佐藤 存

問合せ先責任者 (役職名) 取締役上席執行役員管理本部長 (氏名) 多木 宏行

TEL 06-6110-1560

四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日

配当支払開始予定日

平成25年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	44,812	10.3	2,129	0.1	2,357	9.3	1,315	23.0
25年3月期第2四半期	40,639	△6.9	2,127	△12.6	2,156	△11.2	1,069	△22.0

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 1,875百万円 (417.4%) 25年3月期第2四半期 362百万円 (△68.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	12.49	—
25年3月期第2四半期	10.15	9.86

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年3月期第2四半期	86,748		39,729		45.8
25年3月期	76,804		38,246		49.7

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 39,715百万円 25年3月期 38,209百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	3.50	—	3.50	7.00
26年3月期	—	3.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	3.50	7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,000	8.2	5,000	10.2	5,200	3.5	3,000	3.9	28.48

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	111,771,671 株	25年3月期	111,771,671 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	6,440,995 株	25年3月期	6,437,703 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	105,332,484 株	25年3月期2Q	105,401,927 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2 . サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3 . 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策を背景とした円高是正を受け、輸出関連企業を中心とした業績の回復により景気持ち直しの動きが見られました。一方、原燃料価格の高騰や欧州経済の低迷等、景気下振れリスクが存在する状況下で推移いたしました。

このような環境の下、当社グループは、高付加価値企業への事業転換を進めるとともに機能化学品の輸出拡大、クロール・アルカリの国内シェア拡大に取り組んでまいりました。また、水島地区ではエピクロルヒドリン増産のための大型設備投資を実施するとともに、コスト低減対策として省エネ電解槽の導入、多角的調達のための原材料貯蔵設備への投資を行いました。

基礎化学品では、クロール・アルカリは、市況は弱含みで推移しましたが、戦略的販売施策の実施により販売数量が増加し、売上が増加いたしました。エピクロルヒドリンは、アジア市場価格の下落と国内電子材料向けエポキシ樹脂の需要の減少により、売上が減少いたしました。アリルクロライドは、需要が堅調に推移し、売上が増加いたしました。

機能化学品では、アリエーテル類は、為替が円安に推移するとともに、欧米向けの販売数量が増加し、売上が増加いたしました。エピクロルヒドリンゴムは、欧州経済の低迷により自動車用途向け、OA機器用途向けが低調に推移しましたが価格改定の効果もあり、売上が増加いたしました。ダップモノマーは欧州、アジア向け輸出が堅調に推移するとともに、ダップ樹脂はUVインキ用途向けなどが国内外ともに堅調に推移し、売上が増加いたしました。液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、医薬品精製用途においてアジア、欧米への輸出が好調に推移し、売上が増加いたしました。医薬品原薬・中間体は、抗潰瘍薬中間体などが低調でしたが、抗ウイルス薬中間体、急性心不全治療薬原薬、筋疾患治療薬原薬および食品添加物用酵素などが好調に推移し、売上が増加いたしました。カラーレジストはタブレット、スマートフォン向けが好調に推移し、売上が増加いたしました。また、昨年9月に買収した株式会社インペックスのガラスファイバーに関する事業では電子材料および産業資材向けに販売数量が増加し、売上が増加いたしました。

住宅設備ほかでは、化粧板などのダップ加工材は、新築やリフォーム向けの需要が増加するとともに、住宅関連商品が好調に推移し、売上が増加いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、448億1千2百万円と前年同期比10.3%増加いたしました。利益面におきましては、営業利益は、21億2千9百万円と前年同期比0.1%の増加、経常利益は、23億5千7百万円と前年同期比9.3%の増加、四半期純利益は、13億1千5百万円と前年同期比23.0%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて、19.3%増加し495億6千1百万円となりました。これは、主として有価証券が80億円増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて、5.5%増加し371億8千7百万円となりました。これは、主として有形固定資産が11億2千4百万円増加、投資有価証券が8億5千万円増加したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、12.9%増加し867億4千8百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて、7.0%増加し339億7千1百万円となりました。これは、主として、1年内返済予定の長期借入金が15億5千5百万円増加、支払手形及び買掛金が6億6千万円増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて、91.8%増加し130億4千7百万円となりました。これは、主として長期借入金が59億1千万円増加したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて、21.9%増加し470億1千9百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて、3.9%増加し397億2千9百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて、65億4千万円増加し124億7千5百万円となりました。当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの状況は次の通りであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、17億7千6百万円の収入（前年同四半期は6億2千6百万円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税金等調整前四半期純利益が22億2千5百万円、減価償却費が11億5千5百万円となり、一方、減少要因としてたな卸資産が11億4千6百万円増加したことによります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、23億7千5百万円の支出（前年同四半期は36億4千1百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出28億4千6百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、70億9千5百万円の収入（前年同四半期は12億2千9百万円の収入）となりました。これは主に、長期借入れによる収入80億円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年5月10日発表の業績予想に変更はありません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,934	4,475
受取手形及び売掛金	25,463	25,522
有価証券	—	8,000
商品及び製品	5,850	6,819
仕掛品	957	991
原材料及び貯蔵品	2,202	2,345
その他	1,150	1,410
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	41,555	49,561
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具（純額）	7,051	7,118
その他（純額）	13,732	14,789
有形固定資産合計	20,784	21,908
無形固定資産		
のれん	1,165	1,101
その他	82	131
無形固定資産合計	1,248	1,233
投資その他の資産		
投資有価証券	11,565	12,415
その他	1,659	1,638
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	13,215	14,045
固定資産合計	35,248	37,187
資産合計	76,804	86,748

